

1. 職員数推移

職 種	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末
医 師	7	9	12
看護師・准看護師	44	54	64
看 護 助 手	10	11	13
薬 剤 師	3	4	4
臨床検査技師	4	5	5
放射線技師	4	4	4
理学療法士	2	2	4
作業療法士	0	0	2
言語聴覚士	0	0	1
臨床工学技士	1	1	1
管理栄養士	2	2	2
事 務	7	8	11
労 務	2	2	1
計	86	102	124

2. 2004年度採用・退職

職 種	採 用	退 職
看 護 師	21	10
看 護 助 手	9	4
臨床検査技師	0	1
理学療法士	1	0
作業療法士	2	0
言語聴覚士	1	0
管理栄養士	1	1
事 務	3	0
計	38	16

3. 職員研修会

研修会名	開催日	目的	対象者
新入職員研修会	4月1日(木) 2日(金)	医療人、済生会職員としての基本的事項を身につける	新入職員 (26名)
2・3年目フォロー研修会	10月30日(土)	入社してから2～3年が経ち、社会人・医療人としての立場を再度認識させる。	2・3年目職員 (13名)
中堅職員研修会	11月13日(土)	病院の方針・現況を理解・意識させることによりモチベーションUP・病院運営への参画意識をはかる。また、部署内でのリーダーとしての位置づけを認識させる	原則、5年目以上職員 (25名)
幹部・リーダー研修会	12月4日(土)	次年度行動計画を策定する	原則、幹部・各部署所属長 (27人)

4. 2004年行動計画書作成

開院2年目の2004年は、地域医療機関・福祉施設・行政・住民一体となった病院を作り上げていく主旨のもと「Collaboration」をキーワードとし、スタートした。また、以下の事項を2004年の重点取り組みとした。

- ① 地域ニーズに合った診療機能を構築する
- ② 広報活動を強化する
- ③ 医師の確保と職員の教育体制を整備する
- ④ 回復期リハビリ病棟を円滑に立ち上げ・運用する
- ⑤ 病院経営の早期安定化をはかる

2004年から年度行動計画書をバランスト・スコアカード(BSC)に基づいて策定した。顧客の視点、財務の視点、内部プロセスの視点、学習と成長の視点の四つの視点に質向上の視点を加え、それぞれの視点の戦略テーマを達成するための評価指標・目標を設けた。具体的かつ進捗管理の容易な計画書を作成することができた。

5. 病院機能評価受審準備スタート

開院後間もないが、我々の実践している医療・業務の標準化、見直しをはかるために、2005年度以降病院機能評価を受審する予定であり、2004年度より受審準備をスタートした。来年7月以降に受審する病院は、Version 5.0での受審となる。準備を進めていくにあたり、7月に病院機能評価プロジェクトチームを立ち上げた。医師1名・看護師4名・薬剤師1名・検査技師1名・事務5名の構成である。現在プロジェクトチーム内での勉強会を1、2週に1回の割合で実施しており、また全職員への説明会を開催する等して、着々と準備を進めている。

6. 施設・設備整備

2004年度も建物・設備、医療機器を整備するにあたり、2003年度に引き続き再編成公的医療機関等施設・設備整備補助金による整備を実施した。2004年度は2年目の整備となる。

施設については、検査室、厨房の主に設備改修工事を行い、2004年度で計画していた施設整備補助事業は終了した。医療機器については、電動ベッド、関節鏡、エコー付属機器、患者監視装置等の買い替えを行い、2005年度までの3年間で計画している機器整備を行う予定である。

7. 全体朝礼

職員間のコミュニケーションをはかるために、2004年3月からスタートした月一回の全体朝礼は、2004年度途中から内容を変え、現在も継続中である。以前は職員のスピーチがメインであったのに対し、職員が求めている情報を積極的に公開するために、病院の方針、病院の運営状況、委員会・プロジェクト等での必要事項を伝達する場とした。

今後も全職員が同じベクトルを向くための有効な手段を、朝礼以外にも検討していきたい。

8. 患者搬送車導入

2004年度は2台の患者搬送車を導入した。1台は「日本財団 福祉車両助成事業」による車椅子対応車である。これにより、車椅子状態での患者搬送が可能となった。患者搬送のみならず、訪問看護やリハスタッフによる家屋調査等でも活用している。また、もう1台は、救急車と同じ大きさで、ストレッチャーに対応した規格の車で、2004年度は両者合わせ約40件（7月～3月）の搬送実績があった。

9. 総合消防訓練

2005年3月3日、悪天候の中、開院後初めての総合消防訓練を実施した。今回は、通報訓練は、非常回線を使っての消防署への連絡。避難訓練は、避難スベリ台を使って、避難等本番同様行った。模擬患者を含め、延べ20名が当訓練に参加した。出火点は1階病棟洗面所を想定し、自衛消防本部を南側車庫に設置した。訓練終了後、宇城消防本部西分署長より、特段問題はない旨の講評を頂いた。

最近各地で大規模な地震が続いていることから分かるように、日本では安全な地域は存在しなくなった。消防訓練のみにとどまらず、災害への対応を当部署の重要な役割と捉え、大規模災害への備えにも今後万全を期さなければならない。

10. 企画総務関連の主な行事

- 4月 新任式
- 5月 消防署立入検査
社会保険事務所検査

- 7月 「みなと祭り」参加
- 9月 救急合同カンファランス実施
接遇に関する講演会開催
熊本病院からの出向職員に対する意向調査
- 10月 2005年度新入職員採用試験
宇土郡市医師会主催のミニバレーボール大会参加
- 12月 病院忘年会
もちつき
- 1月 院長年頭挨拶
保健所立入検査
- 3月 天草パールラインマラソン大会救護班参加